

令和9年度

学生募集要項

大学院看護学研究科看護学専攻
(博士前期課程)



新潟県立看護大学

目 次

I 入学者選抜要項

1	アドミッションポリシー【入学者受入方針】	1
2	募集人員	3
3	出願資格	3
4	出願前の手続	4
5	出願手続	7
6	選抜方法等	9
7	合格発表	11
8	試験成績の開示	12

II 入学手続、初年度納付金

1	入学手続	12
2	初年度納付金	13

III 本学研究科（博士前期課程）の特色

1	カリキュラムポリシー【教育課程の編成方針】	14
2	専門看護師（CNS）コース、助産師コースでの取得資格	16
3	社会人の就学	17
4	長期履修制度	17
5	授業科目	18
6	授業科目の概要	21
7	研究指導分野	29

IV その他

1	試験会場略図	30
2	入学手続場所案内図	31
3	障害等を有する入学志願者の事前相談について	32

◆出願書類様式（8月入試用と1月入試用の2種類あります。）

A票 志願票

B票 写真票

C票 受験票

D票 入学考査料納付確認票

E票 経歴書

F票 志願理由書

G票 長期履修申請書

振込依頼書（新潟県立看護大学入学考査科）・振込金及び手数料領収書（志願者保存）・入学考査料納付証明書（大学提出用）

H票 受験票返送封筒

出願用封筒

◆出願資格審査申請書類様式（8月入試用と1月入試用の2種類あります。）

入学試験出願資格認定申請書

在職期間証明書

業績一覧

◆推薦依頼書類様式（8月入試用のみ）

推薦依頼書

志願理由書

I 入学者選抜要項

1 アドミッションポリシー【入学者受入方針】

「地域文化に根ざした看護科学の考究」という教育理念のもと、看護・助産の質向上に貢献できる人材の育成を目指し、以下に示す各コースの教育目的を理解し、主体的に学修・研究に取り組む資質・能力を有する学生を求めます。

(1) 【研究コース】

広い視野と高度な倫理観を備え、人間の尊厳を基盤とした看護・助産の学術体系・研究を探究し、看護・助産の質向上に貢献し得る創造性豊かな看護学教育者・研究者の育成を目指します。

1. 看護分野において、高度な研究能力の修得に必要な基礎的学力および科学的思考力を備えている人
2. 看護の専門性に基づいた高度な知識を修得し、高度専門職業人として社会に貢献する意欲のある人
3. 地域・医療・福祉分野の多職種、地域の関係者等と連携し、地域のケアシステム構築の発展に貢献する意欲のある人
4. 看護実践から生じた課題を深く探究し、倫理的視点を基盤に、専門領域における研究能力を修得する意欲のある人
5. 看護における教育、研究、実践活動において、リーダーとして貢献する意志を備えている人

(2) 【専門看護師コース】

複雑で困難な健康課題を持つ個人、家族、地域社会に対し、卓越した臨床実践能力を発揮できる専門看護師の育成を目指します。

1. 看護学に関する専門知識と臨床経験を有し、大学院での学修に必要な基礎的学力と論理的思考力を備えている人
2. がん看護または老人看護（老年看護）の専門領域において、より質の高い看護を提供したいという強い探究心を持ち、将来、専門看護師として臨床現場の変革やケアシステムの構築に貢献する意志を備えている人
3. 地域社会が抱える複雑な健康課題（少子高齢化、地域包括ケア、多職種連携など）に関心を持ち、高度な専門性を発揮して地域の人々の健康と生活の質の向上に寄与する意欲のある人
4. 人間の尊厳と権利を尊重する高い倫理観を持ち、対象者や家族のみならず、多職種チームのメンバーと円滑に連携・協働できるコミュニケーション能力と調整力を備えている人
5. 臨床現場における看護の現象や課題を科学的な視点で捉え、研究を通してエビデンスを創出し、それを実践の改善に還元しようとする意志を備えている人

(3) 【助産師コース】

科学的根拠に基づいた質の高い助産実践能力を身につけ、母子の暮らしを見据えた助産が実践できる助産師の育成を目指します。

1. 科学的根拠に基づいた質の高い助産実践能力を身につけるために必要な母性看護学の基礎的な知識及び科学的思考力を備えている人
2. 保健・医療・福祉に関わる多職種との連携・協働の重要性を理解し、地域における母子ケアに主体的に関与しようとする意欲のある人

3. 災害時を含む多様な助産実践の場に関心を持ち、状況に対応した助産活動や助産管理について学ぶ意欲のある人
4. 倫理観に基づき助産実践に還元できる研究に取り組む意志を備えている人
5. 助産実践を振り返り、根拠に基づいて学びを深めながら、専門職として継続的に成長していかうとする意欲のある人

入学者の選抜において、各コースのアドミッションポリシーを以下の方法により評価します。

【研究コース】

アドミッションポリシー 試験科目	1	2	3	4	5
筆記試験（小論文）	○				
面接（提出書類を含む）		○	○	○	○

【専門看護師コース】

アドミッションポリシー 試験科目	1	2	3	4	5
筆記試験（小論文）	○				
面接（提出書類を含む）		○	○	○	○

【助産師コース】

アドミッションポリシー 試験科目	1	2	3	4	5
筆記試験（小論文）	○				
筆記試験（母性看護学専門科目）	○				
面接（提出書類を含む）		○	○	○	○

2 募集人員

入学者の選抜は、8月入試と1月入試の2回実施する予定ですが、8月入試において定員に達した場合は、1月入試を実施しないことがあります。

研究科名	専攻名	課程名	募集人員	
			8月入試	1月入試
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	15名 〔うち助産師コース 4名 (学内推薦選抜 若干名を含む)〕	

※ 助産師コースの学内推薦選抜は、8月入試のみ実施します。

3 出願資格

(1) 一般選抜

出願資格は次の各号のいずれかに該当する者とします(令和9年3月31日までに該当する見込みの者を含みます。)

- ① 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑤ 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- ⑥ 本大学院において個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和9年3月31日までに22歳に達する者

なお、出願資格審査基準は以下のとおりです。

次のア又はイのいずれかに該当すること

ア 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了した者で、研究業績(学術・専門雑誌への論文掲載、筆頭者として学会発表)を有する者

イ 短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業(修了)者で、看護師、保健師、助産師のいずれかの資格取得後、資格者として通算3年以上の実務経験を有する者(令和9年3月31日までに該当する見込みの者を含みます。)

(注1) 助産師コースは、上記3出願資格①から⑥のいずれかに該当し、日本の看護師免許を有する女子(令和9年3月31日までに取得する見込みの者を含みます。)とします。また取得見込みの場合は、入学時までに看護師国家試験に合格していることが必要です。

- (注2) ⑥ア又はイの資格により出願しようとする者は、事前に本大学院の「出願資格審査」を受けることが必要であり、審査で出願資格を有していると認定された場合のみ出願ができます。
- (注3) (注2)の出願資格⑥に係る「出願資格審査」の手続は、次の「4 出願前の手続」により行ってください。

(2) 学内推薦選抜(助産師コースのみ)

次の各号のすべてに該当し、推薦選抜判定において本学看護学部長の推薦を受け出願する女子(以下、「学内選抜者」という)。

- ① 本学看護学部を令和9年3月卒業見込みである者
- ② 学内選抜者として受験し合格した場合に入学することを確約できる者

(注1) 出願前に推薦者選抜において本学看護学部長の推薦を得る必要があります。

(注2) 入学時までには看護師国家試験に合格していることが必要です。

4 出願前の手続

(1) 事前面談(出願する者全員)

出願を希望する者は、当該年度の出願前に、入学後の研究等について指導を希望する分野に所属する教員(以下、研究指導教員)と面談を行い、志願票に研究指導教員による署名を必要としますので、早めに事前面談を済ませてください。連絡先は29ページをご参照ください。

(2) 出願資格審査(3出願資格(1)⑥ア又はイの資格により出願する者)

出願前に個別の入学資格審査により認定を受ける必要がありますので、出願資格審査の申請を必ずしてください。

① 申請期間

【8月入試】令和8年7月9日(木)から7月16日(木)まで

【1月入試】令和8年11月20日(金)から11月27日(金)まで

※ 申請受付期限は最終日の午後5時(必着)です。

② 申請方法

申請書類を一括して任意の封筒に入れ、郵送又は直接持参により手続きを行ってください。

ア 郵送により出願する場合は、「簡易書留速達郵便」とし、**郵送にかかる日数を十分考慮して発送してください(最終日の午後5時必着)**。

イ 直接持参の場合の受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとします(土・日曜日及び祝日は受け付けません)。

ウ 申請先は、7ページの「(3)出願先」と同じです。

③ 申請書類

書 類※1 〈 〉内は、当該書類の提出対象者	作 成 方 法 等
入学試験出願資格認定申請書 〈出願資格審査を申請する者〉	本学所定の様式に必要な事項をもれなく記入して提出してください。
在籍期間証明書 〈出願資格審査基準「ア」該当で申請する者〉	在籍した（している）機関の直属の長による証明書を提出してください。
卒業（修了）証明書 〈出願資格審査基準「イ」該当で申請する者〉	看護師免許資格取得に係る出身学校長による証明書を提出してください。
免許証（状）の写し 〈出願資格審査基準「イ」該当で申請する者〉	看護師、保健師、助産師の資格のうち、取得している全ての免許証（状）の写し（A4サイズに縮小コピーし、 <u>原本証明</u> ^{*2} したもの）を提出してください。
在職期間証明書 〈出願資格審査基準「イ」該当で申請する者〉	本学所定の様式に記入したものを提出してください。ただし、1施設（機関）で在職期間が基準（3年以上）に満たない場合、様式をコピーして複数の施設（機関）から証明を受け、基準を満たすことが証明できる枚数を提出してください。
業績一覧 〈出願資格審査基準「ア」該当で申請する者〉	本学所定の様式に記入したものを提出してください。また、論文・抄録等の写しを添付してください。
改姓等を証明する書類 〈各種証明書と現在の氏名が不一致の者〉	改姓等を証明する書類（戸籍抄本等）を提出してください。
審査結果通知用封筒（長3）	審査結果通知先の住所、氏名、郵便番号を明記し、簡易書留相当額の切手を貼付してください。

※1 各種証明書は申請開始日より3ヶ月以内に取得したものを用意してください。

※2 原本証明とは、原本とその写しを一緒に保健所へ持参し、その写しに保健所職員の職名・氏名で「原本の内容に相違ない」旨を直接記入（証明）されたものをいいます。

④ 審査結果の通知

審査結果は、郵送で本人あてに通知します。

8月入試の場合は7月24日（金）までに、1月入試の場合は12月4日（金）までに通知が届かない場合は、教務学生課教務係（TEL 025-526-2811）までお問い合わせください。

なお、出願資格が認定された場合の有効期間は、当該年度のみです。

(3) 推薦依頼（3 出願資格（2）(学内選抜者)により出願する者) ※ 8月入試のみ

出願前に本学看護学部長の推薦を得る必要がありますので、下記④に記載の書類（以下「推薦依頼書等」という。）を提出してください。

なお、助産師コースの学内推薦選抜は8月入試のみ実施し、1月入試では行いませんので注意してください。

① 対象者

次のアからウのすべてに該当する者

ア 本学看護学部を令和9年3月に卒業見込みである者

イ 推薦依頼書提出時点で確定している累計GPA値が3.50以上である者

ウ 学内選抜者として受験し合格した場合に入学することを確約できる者

② 提出期間

令和8年7月6日(月)から7月10日(金)まで

※ 受付期限は最終日の午後5時(必着)です。

③ 提出方法

推薦依頼書等を直接持参により提出してください。

なお、受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとします(土・日曜日及び祝日は受け付けません)。

提出先は、7ページの「(3)出願先」と同じです。

④ 提出書類

書 類	作 成 方 法 等
推薦依頼書	本学所定の様式に必要事項をもれなく記入して提出してください。
志願理由書	

⑤ 推薦者選抜面接

推薦依頼書等を提出後、推薦者を選抜するため本学教員との面接を実施します。面接日時、会場等は別途連絡しますので、必ず面接を受けてください。

⑥ 推薦者選抜方法

本学看護学部における成績評価及び面接の合計得点により判定します。

⑦ 結果の通知

判定結果は、本人あてに通知書を交付します。7月24日(金)までに連絡しますので、教務学生課教務係まで通知書を取りに来てください。

⑧ 推薦選抜判定結果の開示

推薦者選抜判定の結果について、成績評価及び面接の合計得点及び順位の開示を請求することができます。

【開示期間】令和8年7月24日(金)から8月21日(金)まで

【開示場所】新潟県立看護大学教務学生課教務係

5 出願手続

(1) 出願期間

【8月入試】令和8年7月27日(月)から8月5日(水)まで

【1月入試】令和8年12月7日(月)から12月18日(金)まで

※ 出願受付期限は、最終日の午後5時(必着)です。郵送する場合は所要日数を十分考慮して出願してください。

(2) 出願方法

出願書類を一括して所定の出願用封筒に入れ、郵送又は直接持参により手続きを行ってください。

① 郵送により出願する場合は、「簡易書留速達郵便」とし、**郵送にかかる日数を十分考慮して発送してください(最終日の午後5時必着)**。

② 直接持参の場合の受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとします(土・日曜日及び祝日は受け付けません)。

(3) 出願先

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地

新潟県立看護大学 教務学生課教務係

電話番号 025-526-2811

(4) 入学考査料

30,000円

(5) 出願書類

本学所定の様式のもの。「8月入試用」と「1月入試用」の2種類がありますので、書類作成の際、間違えないよう十分注意してください。

書 類		作 成 方 法 等
A票	志願票	必要事項をみれなく記入してください。 ※事前面談を行った研究指導教員の署名が必要です。
B票	写真票	必要事項をみれなく記入してください。 写真(縦4cm×横3cm、上半身正面、無帽、無背景で出願前3ヶ月以内に撮影したもの、白黒可)の裏面に氏名、生年月日を記入の上、写真貼付欄にはがれないよう、全面のり付けしてください。
C票	受験票	
D票	入学考査料 納付確認票	必要事項をみれなく記入してください。 所定の欄に、金融機関(ゆうちょ銀行を除く)の収納印を受けた「入学考査料納付証明書」を添付してください。

入学考査料 30,000 円		<p>「振込依頼書（新潟県立看護大学入学考査料）・振込金及び手数料領収書（志願者保存）・入学考査料納付証明書（大学提出用）」に必要事項を記入し、定められた期間に、最寄りの金融機関（ゆうちょ銀行を除く）に持参し、窓口で振り込んでください。なお、A T M（現金自動預払機）は利用できません。</p> <p>振込手数料は志願者本人の負担となります。</p> <p>振り込み後、「振込金及び手数料領収書（志願者保存）」及び「入学考査料納付証明書（大学提出用）」を受け取り、金融機関（ゆうちょ銀行を除く）の収納印が押印されていることを確認してください。</p> <p>依頼人氏名欄は、必ず志願者本人の氏名を記入してください。</p> <p>金融機関受付期間</p> <p>【8月入試】 令和8年7月27日(月)から8月5日(水)まで</p> <p>【1月入試】 令和8年12月7日(月)から12月18日(金)まで</p>
E 票	経歴書	必要事項をみれなく記入してください。
F 票	志願理由書	必要事項をみれなく記入してください。
G 票 〈長期履修制度の適用希望者〉	長期履修申請書	<p>必要事項をみれなく記入してください。</p> <p>※ 長期履修制度の適用を希望する場合、提出してください。</p> <p>※ 長期履修制度の詳細については、17 ページの「4 長期履修制度」をご覧ください。</p> <p>※ <u>助産師コースは、長期履修制度の適用はありません。</u></p>
H 票	受験票返送封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、簡易書留相当額の切手を貼付してください（印刷してある「様」は消さないでください）。
出願用封筒		住所、氏名等必要事項を記入し、「簡易書留速達郵便」で郵送又は直接持参してください。

該当者のみ提出するもの。

書 類	作 成 方 法 等
〈 〉 内は、当該書類の提出対象者	
卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書 〈出願資格（1）①に該当の者〉	<p>出身大学の学長又は学部長が作成したものを提出してください。</p> <p>次ページに続く</p>

学士の学位授与（見込）証明書 〈出願資格（１）②に該当の者〉	大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書などを提出してください。 なお、見込みの場合は学位授与後、改めて証明書を提出していただきます。
その他の証明書 〈出願資格（１）③、④又は⑤に該当の者〉	該当する資格を証明する書類を提出してください。
推薦書 〈出願資格（２）に該当の者〉	本学が交付した推薦書を厳封のまま提出してください。
改姓等を証明する書類 〈出願資格（１）に該当し、各種証明書と現在の氏名が不一致の者〉	改姓等を証明する書類（戸籍抄本等）を提出してください。

※ ３ページの３出願資格（１）⑥ア又はイに該当として出願資格審査を受け、資格を有すると認定された者は資格に関する証明書は提出済みです。

（注１） 証明書は出願開始日より３ヶ月以内に取得したものを用意してください。

（注２） A～H票の各書類及び出願用封筒は、本冊子に添付しています。万一、落丁等がありましたら７ページの「(3)出願先」へ連絡してください。

（６） 出願上の注意事項

- ① 出願書類が全て揃っていない場合には受付できませんので、出願の際には十分確認してください。
- ② 出願書類のB～D票は切り離さないでください。
- ③ 出願受付後には、出願事項の変更は認められません。ただし、住所、氏名、電話番号に変更があった場合には、出願先まで連絡してください。
- ④ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載事項と相違する事実が発見された場合、入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑤ 試験日の５日前までに受験票が届かない場合には、出願先までお問い合わせください。
- ⑥ 一度受付をした出願書類及び入学考査料は、返却いたしません。
- ⑦ 記載方法等について、不明な点等がありましたら出願先までお問い合わせください。

6 選抜方法等

（１） 試験期日・試験会場

	試験期日	試験会場
8月入試	令和8年8月27日（木）	新潟県立看護大学 （新潟県上越市新南町240番地）
1月入試	令和9年1月28日（木）	

（注１） 8月入試において定員に達した場合は、1月入試を実施しない場合があります。

（注２） 助産師コースの学内選抜者の試験は、8月入試のみとなります。

(2) 入場開始時刻・入室完了時刻

	一般選抜 (助産師コース)	一般選抜 (助産師コース以外)	学内選抜者 (8月入試のみ)
入場開始時刻	8:30から	10:00から	12:30から
入室完了時刻	9:15まで	10:45まで	13:15まで

(3) 試験時間割

	試験科目	試験時間
1	筆記試験(母性看護学専門科目)	9:30 ~ 10:30
2	筆記試験(小論文)	11:00 ~ 12:00
3	面接	13:30 ~

(4) 試験科目

① 筆記試験(小論文)

看護に関するテーマの論述

② 面接

現在に至る看護教育や研修又は実務の中で体得した看護の学理、大学院で学びたい分野及び関心のある研究テーマ、修了後のキャリアデザインなど

③ 筆記試験(母性看護学専門科目) ※一般選抜(助産師コース)のみ

母性看護学の専門的知識

(5) 配点

① 一般選抜(助産師コース以外)

筆記試験(小論文)、面接試験及び提出書類の内容を総合して判定します。

試験科目	配点
筆記試験(小論文)	100点
面接(提出書類を含む)	100点
合計	200点

② 一般選抜(助産師コース)

筆記試験(小論文、母性看護学専門科目)、面接試験及び提出書類の内容を総合して判定します。

試験科目	配点
筆記試験(小論文)	100点
筆記試験(母性看護学専門科目)	100点
面接(提出書類を含む)	100点
合計	300点

③ 学内推薦選抜（助産師コースのみ）

面接試験及び提出書類の内容を総合して判定します。

試験科目	配点
面接(提出書類を含む)	100点
合計	100点

(6) 受験上の注意事項

① 共通の注意事項

- ア 受験者本人以外は試験室には入室できません。
- イ 試験会場では、係員等の指示に従ってください。
- ウ 当日、受験票を必ず持参してください。受験票を忘れた者は、係員等の指示に従い、受験票の再交付を受けてください。
- エ 受験票は、入学手続きの際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- オ 試験会場では携帯電話等の音の出る機器は必ず電源を切り、鞆等にしまってください。身につけたり、机の上に置くことは禁止します（時計として使用することも不可）。
- カ 内履きは必要ありません。
- キ 試験会場及びその周辺で合格電報等の受付を行う者がいても、本学とは一切関係なく、トラブル等が生じてても責任を負えないので注意してください。

② 筆記試験受験者の注意事項

- ア 当日は、「HBの黒鉛筆（シャープペンシル可）」、「消しゴム」を必ず持参してください。
- イ 筆記試験時間中に使用を許可する物品は、「HBの黒鉛筆（シャープペンシル可）」、「消しゴム」、「鉛筆削り」、「時計（計時機能のみのもの）」とします。ただし、複数色及び多機能ボールペンの使用は不可とします。
- ウ 試験時間内における受験者間の物品の貸借は一切認めません。
- エ 試験会場では昼食の販売は行いませんので、各自で準備してください。

7 合格発表

(1) 発表期日

【8月入試】 令和8年9月7日(月) 午前10時

【1月入試】 令和9年2月8日(月) 午前10時

(2) 発表方法

大学のホームページに「合格者受験番号一覧表」を掲載します。
また、合格者に合格通知書を送付します（不合格者には通知しません）。
なお、電話による問い合わせには一切応じません。

(3) 追加合格

入学手続期間終了後に、助産師コースの募集人員に欠員が生じた場合、追加合格を行うことがあります。

追加合格を行う場合は、追加合格の実施を本学のホームページに掲載し、追加合格者には令和8年9月18日(金)午前9時から午後5時までに志願票に記載された「志願者の連絡先」に電話連絡しますので、入学の意志を回答できるようにしておいてください。連絡がとれない場合は追加合格の対象となりませんので、この時間に連絡がとれるようにしてください。

8 試験成績の開示

(1) 開示の内容

この試験の結果について、筆記試験及び面接試験の合計得点及び順位の開示を請求することができます。

(2) 開示の手続

受験者(本人に限ります)が受験票又は合格通知書を持参の上、開示場所にて口頭で開示請求してください(電話等による請求では開示できません)。

① 開示期間(合格発表の日から1ヶ月間)

【8月入試】令和8年9月7日(月)から10月5日(月)まで

【1月入試】令和9年2月8日(月)から3月8日(月)まで

土・日曜日及び祝日を除く午前9時から午後4時まで(ただし、正午から午後1時までは除く)

② 開示場所

新潟県立看護大学 教務学生課教務係

II 入学手続、初年度納付金

1 入学手続

(1) 入学手続期間

【8月入試】令和8年9月8日(火)から9月17日(木)まで

【1月入試】令和9年2月9日(火)から2月26日(金)まで

※ 入学手続期限は、最終日の午後5時(必着)です。郵送する場合は所要日数を十分考慮して手続を行ってください。

(2) 入学手続方法

① 入学手続の際には、誓約書、保証書、受験票、写真(縦4cm×横3cm)等の書類が必要

です（入学手続の詳細については、合格通知書送付時にお知らせします）。

出願時に見込証明書を提出した場合は、本学入学後に改めて卒業（修了）証明書等を提出していただきます。

看護師免許取得見込みで受験した場合は、本学入学後に改めて免許証（状）の写しを提出していただきます。

- ② 手続書類の提出は、「簡易書留速達郵便」又は「直接持参」により行ってください。直接持参の受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとし、土・日曜日及び祝日の受付は行いません。
- ③ 入学手続を完了した者には、後日、その旨を通知します。

（3） 入学手続先

〒943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地
新潟県立看護大学 教務学生課 教務係
電話番号 025-526-2811

（4） 入学手続上の注意事項

- ① 入学手続期間内に手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。
- ② 入学料及び必要な書類が全て揃っていない場合には受付できませんので、書類提出の際には十分確認してください。また、入学手続期間を過ぎて到着したものは、受付できませんので、郵送の場合には、所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ③ 一度受付をした入学料及び入学手続書類は返却しません。
- ④ 助産師コースの追加合格者の入学手続期間は、令和8年9月28日(月)から10月2日(金)午後5時(必着)を予定しています。

2 初年度納付金

（1） 入学料

入学手続の際には、下記の入学料を納付する必要があります。

区分	金額	備考
入学料	新潟県内者 282,000 円	次のいずれかに該当する者 ① 入学者本人が、令和8年1月1日から引き続き、新潟県内の市町村に住民登録されている者 ② 入学者の配偶者又は一親等の親族が、令和8年1月1日から引き続き、新潟県内の市町村に住民登録されている者
	その他 564,000 円	上記以外の者

(注1) 新潟県内者については、県内者であることを確認するため、入学手続時に「住民票」

等の証明書類を提出していただきます。

(注2) 上記入学料の金額は、令和8年4月1日現在のもので、入学料の改定が行われた場合、改定時から新しい入学料の額を適用します。

(2) 授業料

区 分		金 額	備 考
授 業 料	修業年限 2年	年額 535,800 円	前期分 5月末までに納付 後期分 11月末までに納付 ※ 年額を、2回に分けて納付するもの
	修業年限 3年	年額 357,200 円	上記と同じ

(注1) 修業年限3年の長期履修を希望する場合は、出願時に申請を行い、許可を受けることが必要です。なお、3年を超えて在学する時点から、修業年限2年の金額となります。

(注2) 上記授業料の金額は、令和8年4月1日現在のもので、授業料の改定が行われた場合、改定時から新しい授業料の額を適用します。

(3) その他の経費

日本看護学校協議会共済会総合補償制度保険料、テキスト購入費、実習経費（実費）などが別途必要になります。

Ⅲ 本学研究科（博士前期課程）の特色

1 カリキュラムポリシー【教育課程の編成方針】

博士前期課程では、ディプロマポリシーに基づく学位授与の要件を満たすために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

(1) 【研究コース】

1. 実践と理論の統合的学修の推進

高度な看護実践を支える理論的基盤として、必修科目「看護理論」「看護倫理特論」、選択科目「看護政策論」「看護教育学」等の基盤看護分野と、選択科目「疫学」「健康社会学」、各専門分野の必修科目「看護学特論」「看護学援助論」などの科目を配置し、これらを学修することによって、看護学を中心とした学際的知識を修得し、看護学研究及び高度実践の基盤を提供する。

2. 研究遂行力の体系的育成

必修科目「看護学研究法」や「看護学領域別特別研究」、選択科目の「看護情報統計学」や専門分野における各領域の「看護学特別演習」等を通して文献レビュー、研究計画の立案、研究課題の設定、方法論の理解、研究実施のプロセスを学び実践に根差した質の高い研究遂行能力を育成する。

3. 地域志向・多職種連携型教育の推進

専門分野における各領域の「看護学特別演習」や「地域看護学」等を通して地域包括ケアシステム、多職種連携教育を取り入れた実践教育を行うことにより、地域の保健医療福祉課題に対応する実践能力と、多職種との連携・協働能力を育成する。

4. 教育力・指導力の育成

将来臨床指導者や看護教育者になる資質を育成するために、「看護教育学」等を通して看護教育理論や実習指導法を学ぶ機会を提供し、教育力・指導力を育成する。

5. 看護管理能力の育成

実践現場においてリーダーシップを発揮し、チーム運営・人材育成・安全管理・質保証等に関与できる力を養うために、「看護管理学」等を通してマネジメントの基本理論と実践応用を学ぶ機会を提供する。

(2)【専門看護師（CNS）コース】

専門看護師コースでは、本学の建学の理念と地域社会の保健医療ニーズに即し、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

1. 地域と時代の健康課題に応える専門看護実践力の養成

地域包括ケア、少子高齢化、がん・慢性疾患・認知症など地域社会が直面する保健医療課題に関する複雑で多様な健康課題を持つ対象への、高度実践能力を段階的に育成する。

1年次では、専門看護師として基礎的能力を養成するために、専門看護師コース必須科目として「看護研究法」「看護理論」「看護倫理特論」「看護政策論」「看護コンサルテーション論」「看護教育論」を基盤看護分野に配置し、「病態生理」「フィジカルアセスメント」「臨床薬理学」を共通基盤分野に配置する。また、専門分野の実践力と応用力を修得するために専門分野に「がん看護特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「がん看護特別演習Ⅰ・Ⅱ」「がん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ」「老年看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「老年高度看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「老年看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。

2. 専門看護師（CNS）としての6つの能力の体系的育成

公益法人日本看護系大学協議会が定めるCNSの6つ実践能力（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）を中核に統合的に育成するために講義「がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「老年看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、演習「がん看護特別演習Ⅰ・Ⅱ」「がん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ」「老年高度看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「老年看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ」実習「がん高度実践看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「老年高度看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を体系的に編成しCNSの6つの機能が発揮できるような能力を育成する。

3. 実践と研究の往還を重視した課題探求型育成

「専門分野別課題研究」において、臨床現場での課題を出発点とした探究を行い、得られた知見を実践に還元する力を育成する。

4. 多職種連携・地域連携を重視した実践教育

医師、薬剤師、保健師、福祉職など多職種との連携教育（IPE）を導入し、地域包括ケアシステ

ムの中で CNS として調整的役割を果たすための実践力を養う。

5. 倫理的判断と専門職責任を支える教育

「看護倫理特論」「がん看護学演習Ⅰ・Ⅱ」「老年高度看護学援助論」を通して、複雑な倫理課題への対応力や意思決定支援の調整力を重視し専門職としての自律性と責任感を養い、患者の尊厳と権利を守る実践者を育成する。

(3) 【助産師コース】

本コースの教育課程は、ディプロマポリシーに示す到達目標の達成に向けて、アドミッションポリシーに基づく学生の資質を段階的に涵養することを目的として編成する。教育課程は、『助産学の基盤となる科目』と『助産実践の基礎となる科目』から構成され、1年次から2年次にかけて段階的に修得する。

1. レベル1：助産実践の基礎的理論と技術の修得

1年次の前期に配置し、『助産学の基盤となる科目』を構成する「母性看護学特論」「母性看護学援助論Ⅰ」「看護倫理特論」「看護政策論」「看護学研究法」「専門分野別課題研究Ⅰ」と『助産実践の基礎となる科目』を構成する「助産学概論」「基礎助産診断・技術学演習」「助産診断・技術学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」等を通じ、助産実践の基礎的な理論と技術を修得する。

2. レベル2：助産実践における基礎理論と技術の応用

助産実践の応用力を修得する科目は、1年次後期から2年次前期にかけて配置している。『助産学の基盤となる科目』は、基盤看護分野の「看護理論」・「看護コンサルテーション論」と共通基盤分野の「病態生理学」、「臨床薬理学」、「フィジカルアセスメント」、「看護情報統計学」、専門分野の「専門分野別課題研究Ⅱ」から構成される。『助産実践の基礎となる科目』は、「助産診断・技術学演習Ⅴ」「地域母子保健特論」「地域母子保健演習」「助産管理学特論」「助産学実習Ⅰ（周産期ケア）」「助産学実習Ⅱ（母子継続ケア）」「助産学実習Ⅲ（助産管理）」から構成され、災害時の助産活動を含む助産実践における基礎理論と技術の応用を修得する。

3. レベル3：研究能力を備えた自律的助産実践能力の修得

研究能力を備えた自律的助産実践能力の修得を目指して、2年次後期に『助産学の基盤となる科目』に含まれる「専門分野別課題研究Ⅲ」と『助産実践の基礎となる科目』に含まれる「助産学実習Ⅳ（地域母子ケア）」を配置し、地域母子支援における実践を通して実践的研究に取り組むことで、主体的な助産師としての能力の統合と深化を図る。

2 専門看護師（CNS）コース、助産師コースでの取得資格

【専門看護師（CNS）コース】

次の専門分野については、専門看護師（CNS 38 単位）の資格取得に対応できる科目を配置しています。

専門分野		専門看護師（CNS）資格
「がん看護学」	→	【がん看護】
「老年看護学」	→	【老人看護】

【助産師コース】

助産師コースは、助産師国家試験受験資格に必要な科目を配置し、所定の単位を修得することにより助産師国家試験受験資格を取得できます。

3 社会人の就学

大学院設置基準第 14 条では、教育方法の特例により夜間その他の特定の時間又は時期において授業や研究指導を行うことができるとされています。

本大学院では、社会人の方にも就学しやすい環境を提供するため、教育方法の特例を適用して授業を行います（助産師コースを除く）。

なお、在職のまま入学を予定している場合は、出願の時点から勤務先所属長の承諾を得ておいてください（合格の場合、入学手続き時に改めて勤務先の「就学承諾書」の提出が必要となります）。

4 長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限の 2 年では大学院の教育課程の履修が困難な方については、修業年限を 3 年とする長期履修制度を設けています（助産師コースを除く）。

この制度の適用を受けるには、次の（1）から（3）のいずれかに該当することが必要となります。

- （1） 職業（正規職員以外も含む）を有しており、標準修業年限での修了が困難なこと
- （2） 育児、長期介護等の事情があり、標準修業年限での修了が困難なこと
- （3） その他やむを得ない事情があり、標準修業年限での修了が困難なこと

なお、長期履修を認められた方が、当該期間の短縮を希望する場合、1 回に限り短縮申請が可能です。

（注 1） 長期履修を望む場合は、出願時に申請を行い、許可を受けることが必要です。

なお、入学後の申請は原則としてできませんので注意してください。

（注 2） この制度の適用を受けた場合の授業料については、標準修業年限（2 年）の方が 2 年間で納める授業料と同じ額を、3 年間で納めることとなります。なお、3 年を超えて在学する時点から、修業年限 2 年の金額となります。

（注 3） 長期履修期間の延長はできません。

5 授業科目(1) (令和9年4月1日予定)

【研究コース・CNSコース】

授業科目の名称等		配当年次	単位数		単位の構成			時間数	CNS		
			必修	選択	講義	演習	実習		がん	老年	
基盤看護分野	看護学研究法	1・2前	2		2			30	○	○	
	看護理論	1・2後	2		2			30	○	○	
	看護倫理特論	1・2前	2		2			30	○	○	
	看護政策論	1・2前		2	2			30	○	○	
	看護コンサルテーション論	1・2後		2	2			30			
	看護教育学	1・2後		2	2			30			
共通基盤分野	病態生理学	1・2後		2	2			30	○	○	
	フィジカルアセスメント	1・2後		2		2		30	○	○	
	臨床薬理学	1・2後		2	2			30	○	○	
	看護情報統計学	1・2後		2	2			30			
	健康社会学	1・2後		1	1			15			
	疫学	1・2後		1	1			15			
	対人関係特論	1・2後		1	1			15			
専門分野	看護管理学	看護管理学特論	1・2前		2	2			30	○	○
		看護管理学援助論Ⅰ	1・2通		2	2			30		
		看護管理学援助論Ⅱ	1・2通		2	2			30		
		看護管理学特別演習(看護管理学研究)	1・2通		2		2		30		
	基礎看護学	基礎看護学特論	1・2前		2	2			30		
		基礎看護学援助論Ⅰ	1・2通		2	2			30		
		基礎看護学援助論Ⅱ	1・2通		2	2			30		
		基礎看護学特別演習(基礎看護学研究)	1・2後		2		2		30		
	母性看護学	母性看護学特論	1・2前		2	2			30		
		母性看護学援助論Ⅰ	1・2通		2	2			30		
		母性看護学援助論Ⅱ	1・2通		2	2			30		
		母性看護学特別演習(母性看護学研究)	1・2後		2		2		30		
	小児看護学	小児看護学特論	1・2前		2	2			30		
		小児看護学援助論Ⅰ	1・2通		2	2			30		
		小児看護学援助論Ⅱ	1・2通		2	2			30		
		小児看護学特別演習(小児看護学研究)	1・2後		2		2		30		
	成人看護学	成人看護学特論	1・2前		2	2			30		
		成人看護学援助論Ⅰ	1・2通		2	2			30		
		成人看護学援助論Ⅱ	1・2通		2	2			30		
		成人看護学特別演習(成人看護学研究)	1・2後		2		2		30		
	がん看護学	がん看護学特論Ⅰ	1前		2	2			30	○	
		がん看護学特論Ⅱ	1前		2	2			30	○	
		がん看護学特論Ⅲ	1・2前		2	2			30	○	
		がん看護学特別演習Ⅰ	1・2前		2		2		30	○	
		がん看護学特別演習Ⅱ	1・2前		2		2		30	○	
		がん看護学特別演習Ⅲ(がん看護学研究)	1・2後		2		2		30	○	
		がん治療看護介入演習Ⅰ	1後		*2		2		30	○	
		がん治療看護介入演習Ⅱ	1後		*2		2		30	○	
がん高度実践看護学実習Ⅰ		1後		*2			2		○		
がん高度実践看護学実習Ⅱ		1後		*2			2		○		
がん高度実践看護学実習Ⅲ		2前		*2			2		○		
がん高度実践看護学実習Ⅳ		2前		*2			2		○		
がん高度実践看護学実習Ⅴ	2前		*2			2		○			

授業科目の名称等		配当年次	単位数		単位の構成			時間数	CNS		
			必修	選択	講義	演習	実習		がん	老年	
専門分野	老年看護学	老年看護学特論Ⅰ	1・2前		2	2			30		○
		老年看護学特論Ⅱ	1・2前		2	2			30		○
		老年看護学特論Ⅲ	1・2前		2	2			30		○
		老年高度看護援助論Ⅰ	1・2前		2	2			30		○
		老年高度看護援助論Ⅱ	1・2前		2	2			30		○
		老年看護学特別演習Ⅰ	1・2後		2		2		30		○
		老年看護学特別演習Ⅱ	1・2後		2		2		30		○
		老年看護学特別演習Ⅲ(老年看護学研究)	1・2後		2		2		30		○
		老年高度実践看護学実習Ⅰ	2前		* 4			4			○
		老年高度実践看護学実習Ⅱ	2前		* 4			4			○
	老年高度実践看護学実習Ⅲ	2前		* 2			2			○	
	精神看護学	精神看護学特論	1・2前		2	2			30		
		精神看護学援助論Ⅰ	1・2通		2	2			30		
		精神看護学援助論Ⅱ	1・2通		2	2			30		
		精神看護学特別演習(精神看護学研究)	1・2後		2		2		30		
	地域看護学	地域看護学特論	1・2前		2	2			30		
		地域看護学援助論Ⅰ	1・2通		2		2		30		
		地域看護学援助論Ⅱ	1・2通		2		2		30		
		地域看護学特別演習(地域看護学研究)	1・2後		2		2		30		
	看護学領域別特別研究		2通		6			6			
専門分野別課題研究(CNSコース)		2通		* 2			2		○	○	

※単位数に「*」が付いている選択科目は、指定されたコースの学生のみ履修できます。

※CNS欄の「○」は専門看護師教育課程履修者の必修科目。なお、「看護政策論」「看護コンサルテーション論」「看護教育学」「看護管理学特論」については、いずれかひとつの履修でも可とします。

※履修者数等の状況によっては当該年度に開講しない科目もあります。

(修了要件)

・研究コース…基盤看護分野科目から必修6単位、専門分野科目から必修6単位(看護学領域別特別研究が該当)、選択8単位以上(そのうち自らの専門分野科目群から8単位)、その他、基盤看護分野、共通基盤分野及び専門分野の全体から選択10単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ論文審査に合格しなければなりません。

・CNSコース…専門看護師の資格取得を希望する場合は、資格認定に必要な所定の単位を取得していなければなりません。また、専門分野から必修2単位(専門分野別課題研究が該当)を履修し、かつ論文審査に合格しなければなりません。

5 授業科目(2) (令和9年4月1日予定)

【助産師コース】

授業科目の名称等		配当年次	単位数			単位の構成			時間数	修了要件	
			必修	選択	助産師	講義	演習	実習			
基盤看護分野	看護学研究法	1・2前	2			2			30	10単位以上	
	看護理論	1・2後	2			2			30		
	看護倫理特論	1・2前	2			2			30		
	看護政策論	1・2前		2	○	2			30		
	看護コンサルテーション論	1・2後		2	○	2			30		
	看護教育学	1・2後		2		2			30		
共通基盤分野	病態生理学	1・2後		2	○	2			30	8単位以上	
	フィジカルアセスメント	1・2後		2	○		2		30		
	臨床薬理学	1・2後		2	○	2			30		
	看護情報統計学	1・2後		2	○	2			30		
	健康社会学	1・2後		1		1			15		
	疫学	1・2後		1		1			15		
	対人関係特論	1・2後		1		1			15		
専門分野	看護管理学	看護管理学特論	1・2前		2		2			30	39単位以上
		看護管理学援助論 I	1・2通		2		2			30	
	基礎看護学	基礎看護学特論	1・2前		2		2			30	
		基礎看護学援助論 I	1・2通		2		2			30	
	母性看護学・助産学	母性看護学特論	1・2前		2	○	2			30	
		母性看護学援助論 I	1・2通		2	○	2			30	
		助産学概論	1前		2	○	2			30	
		基礎助産診断・技術学演習	1前		2	○		2		30	
		助産診断・技術学演習 I (妊娠期)	1前		2	○		2		30	
		助産診断・技術学演習 II (分娩期)	1前		2	○		2		60	
		助産診断・技術学演習 III (産褥期)	1前		2	○		2		30	
		助産診断・技術学演習 IV (新生児・乳児期)	1前		2	○		2		30	
		助産診断・技術学演習 V (ハイリスク妊産褥婦・新生児)	1後		2	○		2		30	
		地域母子保健特論	1後		2	○	2			30	
		地域母子保健演習	1後		2	○		2		30	
		助産管理学特論	1後		2	○	2			30	
		助産学実習 I (周産期ケア)	2前		10	○			10	450	
		助産学実習 II (母子継続ケア)	2前		2	○			2	90	
	助産学実習 III (助産管理)	2前		1	○			1	45		
	助産学実習 IV (地域母子ケア)	2後		2	○			2	90		
小児看護学	小児看護学特論	1・2前		2		2			30		
	小児看護学援助論 I	1・2通		2		2			30		
成人看護学	成人看護学特論	1・2前		2		2			30		
	成人看護学援助論 I	1・2通		2		2			30		
がん看護学	がん看護学特論 I	1前		2		2			30		
	がん看護学特論 II	1前		2		2			30		
老年看護学	老年看護学特論 I	1・2前		2		2			30		
	老年看護学特論 II	1・2前		2		2			30		
精神看護学	精神看護学特論	1・2前		2		2			30		
	精神看護学援助論 I	1・2通		2		2			30		
地域看護学	地域看護学特論	1・2前		2		2			30		
	地域看護学援助論 I	1・2通		2			2		30		
専門分野別課題研究 I (助産師コース)	1前	2				2			6単位以上		
専門分野別課題研究 II (助産師コース)	1後	2				2					
専門分野別課題研究 III (助産師コース)	2通	2				2					

※助産師欄の「○」は助産師コース履修者の必修科目となります。

※履修者数等の状況によっては当該年度に開講しない科目もあります。

(修了要件)

「修了要件」欄に示した計63単位以上を修得し、かつ論文審査に合格しなければなりません。

助産師免許取得を希望する場合は、国家試験受験資格に必要な所定の単位を取得していなければなりません。

6 授業科目の概要 (令和9年4月1日予定)

授業科目名		授業概要
基盤看護分野	看護学研究法	基本的な研究デザインとその基盤となる前提や科学的推論方法を学び、看護科学の特性を理解する。さらに、看護学研究における基本的な研究方法について理解する。
	看護理論	高度な看護実践および看護学の考究の基盤となる看護理論の構成要素、種類とその発展過程、評価の枠組みについて理解する。また、代表的な看護理論の概念、特徴を明らかにし、理論と看護実践のつながりについて理解する。さらに、本科目で学んだ看護理論を用いた事例分析を通して、実践への適用の有用性を検討する。
	看護倫理特論	看護倫理の意思決定について学びを深め、倫理的感受性を精練されたものにしていくとともに、倫理調整能力を高める。
	看護政策論	看護を取り巻く保健医療福祉の政策課題の分析と政策決定のプロセスを知るとともに、看護職の立場で政策課題の解決に関与することの意義を学ぶ。
	看護コンサルテーション論	コンサルテーションの基礎知識を学ぶとともに、看護職を含むケア提供者に対して実際的な問題を解決するのを助けるためのコンサルテーションに必要な知識や面接・相談技法を学ぶ。
	看護教育学	看護教育学に適用可能な教育学の基礎とともに、看護教育制度、看護教育評価、看護教育学研究の成果などを理解し、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育の現状と連関、今日的課題を考察する。
共通基盤分野	病態生理学	ケアとキューアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践するための基盤となる知識・技術を修得する。エビデンスに基づき、専門看護師として看護の立場から炎症、変性、新生物など病態生理学的変化を解釈・判断するために必要な知識と技術を修得する。
	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの構成と手順、医学的推論・診断の考え方、各系統の診査、代表的な症状・徴候のアセスメントについて講義する。各系統の身体診査は視聴覚教材やシミュレーションモデルを用いて、また、受講生相互に検者・被験者となり演習する。
	臨床薬理学	ケアとキューアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践するための基盤となる知識・技術を修得する。緊急応急処置、薬物動態と薬力学、処方上の留意点と服薬指導、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、専門看護師として看護の視点で、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と技術を学習する。
	看護情報統計学	看護研究および看護実践に必要となる基本的な統計的分析の理論を理解するとともに、その方法を修得し、各自の課題研究での数量の取扱いに関する実践的分析能力を養う。
	健康社会学	1. 実証主義社会学の考え方を、健康現象についての研究に援用するための基礎を身につける。 2. マクロ水準のできごととミクロ水準のできごとの相互連関とその道筋について見取り図を描けるようになる。
	疫学	疫学が健康関連の諸問題について、一人の人間を対象とするのではなく、集団を対象とする科学であることを理解した上で、疫学の基礎及び疫学研究方法について学ぶ。後半の授業では、疫学研究論文を精読して、論文の全体像及び結果を解釈し、さらに内容について討論を行う。
	対人関係特論	対人援助職であり感情労働である看護において、自分自身の対人関係スタイルを理解するとともに、自己理解を他者理解と看護に活用できるようになる。また、人と人の中で生じていることを力動的かつ多面的に理解し、円滑な対人関係能力を高める。

授業科目名		授業概要
看護管理学	看護管理学特論	看護管理に必要な知識体系について総合的に理解する。さらに、実践に即した看護管理の課題を論理的・科学的に探究するための諸理論や概念を理解し、看護管理に関連した研究課題へとつなげ、検証するための研究方法や分析などについても学ぶ。
	看護管理学援助論Ⅰ	看護管理学に関連した国内外の文献を講読し、看護管理学の専門的な知識を深めるとともに、自己の研究課題を探究し、研究計画を立案する。
	看護管理学援助論Ⅱ	看護管理学に関連した諸理論や方法論の学習を深め、看護管理学課題探究の基盤をつくるとともに、自己の研究課題を明確にする。
	看護管理学特別演習	看護管理学に関する自己の課題を明確にして、計画の洗練化を図り研究計画書を作成する。
基礎看護学	基礎看護学特論	看護学と看護実践に関する概念について、他分野の知見を含め検討する。検討を通し、看護における重要性の理由を理解する。また、自己の関心のある課題に関連する概念についても、他分野を含む様々な知見をもとに分析検討する。さらに、その概念について定義する。
	基礎看護学援助論Ⅰ	看護技術の本質及び科学的検証をふまえた技術の洗練過程について理解する。看護技術に関する研究・文献例から、科学的検証のあり方や展望について考察する。また、看護技術適用の必須条件となる主要概念(安全、安楽、自立)を学び、看護の本質についても考察する。さらに、取り組んだ課題のプレゼンテーションを通して、自己の探求した課題に関する理解を再確認する。
	基礎看護学援助論Ⅱ	基礎看護学援助論Ⅰにて取り組んだテーマについて、今後の展望、及び課題克服に向けた研究方法について検討する。今後の展望については、対象のQOLの向上、及び看護の質向上を念頭に検討する。また、研究方法については、基本的な理解とともに、文献の講読およびクリティークを通して理解を深める。さらに、看護実践と研究の関係、及び研究の必要性について検討する。
	基礎看護学特別演習	国内および海外文献を精読し、看護学研究に関わる知識を修得するとともに、基礎看護学に関する研究を正確に理解し、修士論文となる研究への示唆を得る。また、自己の関心・問題意識を、研究課題へと焦点化し研究計画を立案する。
母性看護学・助産学	母性看護学特論	母性看護学および助産学の基盤となる概念、母性・父性の形成・発達を支援する理論と対象の身体的・心理的・社会的・文化的側面の統合的アセスメントの理論、助産実践の基盤となる理論について学ぶ。
	母性看護学援助論Ⅰ	母性看護学および助産学の基盤となる理論や看護援助方法、周産期医療システムにおけるチーム医療や関係機関との調整・連携について学ぶ。また、周産期にある女性とその家族の健康問題の解決に向けた助産ケアの科学的根拠を探究する。
	母性看護学援助論Ⅱ	母性看護の対象である女性とその家族への支援について、母性看護に必要な支援方法を学習し、自己の母性看護実践能力を高める。
	母性看護学特別演習	母性看護に関する看護実践や文献検討から研究課題を見出し、課題に即した研究デザインを検討して研究計画書作成を目指す。
	助産学概論	助産の概念と意義、助産の歴史と母子保健の変遷、助産師教育の変遷、助産師の専門性と職業倫理など自律的に助産を実践するための知識を深め、時代に適応した助産師の役割と責務について学修する。さらに助産実践の基盤となる理論や助産学研究についての理解を通して専門的自律能力を発揮して自律的な助産が実践できる能力と助産師としてのアイデンティティを獲得する。
	基礎助産診断・技術学演習	助産診断の概念と基本原理、科学的根拠に基づくアセスメントや助産診断能力を修得する。妊娠期から育児期における母子とその家族を対象にした系統的な情報収集と助産診断を行うための知識・技術、思考プロセスを修得する。周産期医療、産科救急、周産期メンタルヘルスケアの実践の基盤となる各種ガイドラインを活用した助産診断・技術を学ぶ。また、妊産婦の主体性を尊重した切れ目のない支援を行うために必要な多職種連携・協働に必要なコミュニケーションに関する知識と技術を修得する。さらに、女性及び家族への生涯にわたる健康の継続的支援に必要な知識と技術を修得する。

授業科目名		授業概要	
専門分野	母性看護学・助産学	助産診断・技術学演習Ⅰ (妊娠期)	妊婦の身体的・心理的・社会的な特徴および妊婦と胎児の正常経過、正常からの逸脱の判断、異常を予測する臨床推論に必要な知識と技術を修得する。また、科学的根拠に基づいた助産過程の展開、異常に移行しない予防的な援助を実践するために必要な知識・技術を修得する。
		助産診断・技術学演習Ⅱ (分娩期)	産婦(胎児を含めた)の身体的・心理的・社会的特徴および正常経過、逸脱しやすい健康問題を理解し、科学的根拠に基づいた助産過程の展開と緊急事態に対応するために必要な知識・技術を修得する。分娩期の助産診断と分娩介助技術を修得する。
		助産診断・技術学演習Ⅲ (産褥期)	産婦の身体的・心理的・社会的な特徴および正常な経過、逸脱しやすい健康問題を理解し、科学的根拠に基づいた助産過程を展開するために必要な知識・技術を修得する。また、女性と夫(パートナー)に対する家族計画の指導を学ぶ。
		助産診断・技術学演習Ⅳ (新生児・乳児期)	新生児の生理的変化と健康状態の診断、および乳幼児期の成長・発達の特徴と発達の過程を理解し、助産過程を展開するために必要な知識・技術を修得する。また、新生児の異常・救急蘇生の知識・技術を修得する。さらに、乳児の健康診査、離乳・卒乳の支援について学ぶ。
		助産診断・技術学演習Ⅴ (ハイリスク妊産褥婦・新生児)	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期における正常からの逸脱を診断し、異常を予測する臨床推論能力を高める。また、身体的・心理的・社会的にハイリスクな状態にある妊産褥婦および新生児の支援に必要な諸技法を修得し、増加するハイリスク妊産褥婦および新生児に対応できる能力を身につける。
		地域母子保健特論	地域母子保健の概念と意義、地域母子保健の現状と動向の理解を基盤とし、地域における母子への支援や政策的課題を研究的視点から考察する。また、周産期におけるメンタルヘルス等、地域における母子支援を展開していくための理論、地域診断に必要な知識・技術を学修し、ヘルスプロモーションに基づく効果的な母子保健事業の計画・実施・評価について理解する。多職種と連携・協働しながら母子の暮らしを見据えて子育て世代を包括的に支援するために必要な理論や方法を理解し、助産師のリーダーシップ発揮について探求する。
		地域母子保健演習	母子の暮らしを見据えた地域母子ケアを実践するための地域診断、アセスメント能力、助産ケアのプログラムの企画・実施・評価に関する理論を学ぶ。地域の特性や母子の健康レベルに応じた母子支援として、地域において実施されている産後ケア事業等の母子保健活動に関する助産活動やケアシステムの現状と課題を理解し、学内で具体的な産後ケア事業を計画し、模擬事業を実践することを通して、地域で暮らす産後4か月程度までの母子と家族に対する母子保健活動の課題、臨床から地域への切れ目のない支援を実践するために必要な多職種連携・協働について考察する。

授業科目名		授業概要
母性看護学・助産学	助産管理学特論	助産ケアの質を保証するためのマネジメントとリーダーシップ理論、安全と質保証、関連法規、周産期医療システムと周産期のリスクマネジメント、災害に対する体制と管理について学び、助産管理の在り方を考察する。助産師外来・院内助産・助産院の立ち上げと管理、産科病棟および産科外来の管理の実際および災害時の助産管理について学修する。助産師のキャリアプラン、質の高い助産ケアを提供するための実践能力を育成する人材教育の立案と実際を学ぶ。
	助産学実習Ⅰ (周産期ケア)	周産期にある母子とその家族を対象に、科学的根拠に基づく助産過程を展開し、助産ケアや保健指導を実践する。正常経過の助産診断、10回程度の分娩介助、正常からの逸脱の診断、逸脱予防のケアを実践する。また、総合周産期母子医療センターにおいてハイリスク事例へのケアの実際を学ぶ。
	助産学実習Ⅱ (母子継続ケア)	妊娠中期から産後4か月までの母子を継続して受け持ち、科学的根拠に基づく助産診断、個別性に応じた切れ目のない母子ケアを実践する。また、母子の暮らしを見据えた母子ケアにおける助産師の役割と態度を考察する。
	助産学実習Ⅲ (助産管理)	周産期医療施設における助産の質と安心・安全の確保および医療事故への対応における助産業務管理、平時の災害への備えと被災時の対応の実際について学ぶ。また、地域における周産期医療施設および助産所の役割、サービス内容、連携システムについての実際を学び、質の高い助産を提供するための助産師の役割と責務について探求する態度を修得する。
	助産学実習Ⅳ (地域母子ケア)	地域における母子保健事業・母子ケア事業に参加し、子育て世代を包括的に支援するための切れ目のない地域母子ケアや多職種連携・協働の実際を学ぶ。また、母子の暮らしを見据えた母子ケアの一環として家庭訪問指導や地域診断に基づく子育て支援プログラムを立案し、効率的・効果的な実施および評価について考察する。
小児看護学	小児看護学特論	健康障害を持つ子どもと家族を理解するための基本概念・理論について理解を深める。
	小児看護学援助論Ⅰ	小児看護領域における自己の関心領域の国内外の文献クリティークを通して、自己の研究課題を探求する。
	小児看護学援助論Ⅱ	小児看護領域の自己の研究課題に関する国内外の文献を検討し、研究計画書を作成する。
	小児看護学特別演習	小児看護領域の自己の研究課題について、研究計画書を完成させる。
成人看護学	成人看護学特論	健康障害を持つ成人期にある人々とその家族の援助の基本となる概念および理論を学ぶ。
	成人看護学援助論Ⅰ	健康障害を持つ成人期の人々とその家族への看護アプローチと評価方法を学ぶ。
	成人看護学援助論Ⅱ	成人看護学領域における関心領域の研究の動向を把握し、各自の研究課題の洗練化・明確化を図る。
	成人看護学特別演習	成人看護学領域の個々の研究課題について研究計画書の作成を行う。プレゼンテーション・討議・フィールドワークを通して研究計画を精練し、研究計画書を作成する基本的能力を養う。
がん看護学	がん看護学特論Ⅰ	がん医療やがん看護・緩和ケアの動向を理解するとともに、がん患者のたどる経過(診断、インフォームドコンセント、集学的治療、社会復帰と在宅療養、End of Life Care)に沿って必要となる身体管理・看護ケアの概要について理解する。
	がん看護学特論Ⅱ	がんにより苦痛を体験している人々および家族の特徴について理解を深め、質の高い看護を実践するための基盤となる概念と理論を理解する。
	がん看護学特論Ⅲ	複雑な問題を持つがん患者に対する高度な看護実践のために、がん看護専門看護師としての視点で、対象理解、アセスメント、看護実践に必要ながん病態生理学の基礎知識を理解する。

授業科目名		授業概要	
専門分野	がん看護学	がん看護学特別演習Ⅰ	がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を修得する。
		がん看護学特別演習Ⅱ	がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行い、治療の継続および治療中の生活の質を高めるために必要なアセスメントとエビデンスに基づく看護援助方法や教育技法を修得する。
		がん看護学特別演習Ⅲ	がん看護に関する課題を把握し、文献クリティークを行う。がん看護相談、グループ看護相談、地域のがん看護相談など実践を通じて深めた研究課題について文献を講読し各自の研究の意義と目的を明確にする。さらにはがん専門看護における能力の開発を行う。
		がん治療看護介入演習Ⅰ	がん患者・家族支援に必要な内容を総合的に判断し、ケアとキュアを融合し支援するための技術(治療を受ける患者の心と体を整える支援、各症状のマネジメント、せん妄や抑うつ等の臨床判断を含む緩和ケアなど)について学内や病院演習を通し、実践できる能力を修得する。
		がん治療看護介入演習Ⅱ	既習の基礎知識・技術(フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学、がん病態生理学と支援技術)を活用し、がん患者を受け持ち、ヘルスアセスメント、臨床判断と治療看護介入など必要な内容を総合的に判断し、ケアとキュアを融合し支援する能力を修得する。
		がん高度実践看護学実習Ⅰ	がん看護専門看護師としてのアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割、がん医療における地域連携の実際について、モデルを通して学ぶ。 看護専門職として包括的なアセスメント能力・援助方法について、倫理的判断、諸理論を活用して実習し、専門的能力を養う。 また、包括的なアセスメントに基づき、複雑で対応の難しいがん患者や家族の様々な問題を焦点化し苦痛の緩和、日常生活の回復や適応を促進するために、理論を活用し看護を展開する能力を養う。
		がん高度実践看護学実習Ⅱ	がん看護の特殊性を踏まえて、看護専門職としての包括的なアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割について、論理的判断・諸理論を活用して実習し、専門的・総合的能力を養う。 実習Ⅰを発展させ、スーパービジョンを受けながら、臨床においてがん看護専門看護師として6つの役割における相談・調整・看護職への教育、およびがん医療における地域連携活動に参加し、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。
		がん高度実践看護学実習Ⅲ	がん看護の特殊性を踏まえて、看護専門職としての包括的なアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割について、論理的判断・諸理論を活用して実習し、専門的・総合的能力を養う。 実習Ⅰ・Ⅱを発展させ、スーパーバイズを受けながら、がん看護専門看護師としての6つの役割における実践・倫理調整・相談・教育・研究指導を実践し、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。
		がん高度実践看護学実習Ⅳ	がんの進展や治療に伴う苦痛を抱えている患者に対して、キュアとケアを融合して支援する能力を養う。 がんの治療、経過、状況・場面における苦痛緩和のための症状コントロールと治療を遂行するために必要な医師と協働する医療処置について卓越した判断能力やケア能力を養う。
		がん高度実践看護学実習Ⅴ	がんの進展や治療に伴う苦痛を抱えている患者に対して、キュアとケアを融合して支援する能力を養う。 化学療法と放射線療法に対する有害事象等に関わる高度な症状コントロールと、治療を遂行するために必要な医師と協働する医療処置について、卓越した判断能力やケア能力を養う。

授業科目名		授業概要	
専門分野	老年看護学	老年看護学特論 I	老年高度実践看護の基盤として、老年看護に活用可能な既存の理論・アプローチについて、概念・内容、適用方法と適用上の留意点などを学修する。また、学士課程における老年看護学の独立とその背景ならびに専門看護師制度の創設の背景と目的、求められる役割機能を理解し、老人看護専門看護師の国内外の活動の現状と課題を検討する。さらに、老年看護の実践現場において生じやすい倫理的問題やジレンマとその対応策および、倫理的感受性を鈍麻させる要因を検討し、倫理観の醸成・向上を図るための方策を検討し、老年高度看護実践者としての役割を追究する。
	老年看護学特論 II	高齢者看護では、高齢者が心身諸機能の老性変化に伴う生活機能の変化に適応しつつ健康的な生活を送ることができるよう支援することが重要である。そのためには、極めて個別性の高い老性変化や健康生活のあり様のアセスメント能力を修得することが求められる。そこで高齢者の健康生活の評価方法として開発されているものを活用上の留意点も含めて学修する。また、高齢者のフィジカルアセスメントの方法・留意点などを学修し、シミュレーションモデルや受講生同士で患者・看護師役の体験などの演習を通じて修得する。	
	老年看護学特論 III	老人看護専門看護師として、高度実践看護を実現するために必要な高齢者に生じやすい主な疾患や障害ならびに老年症候群の代表的なものを取り上げ、その概念、病態生理と症候、診断検査、治療法について学修する。また、これらの知識の高度実践看護への活用について討議し、その重要性についての理解を深める。	
	老年高度看護援助論 I	心身の老性変化に伴って高齢者に生じやすい生活機能の低下・障害に対し、自立性・自律性を維持・推進する看護援助の方法を学修・追究する。また、高齢者看護において生じやすい倫理的問題について、高齢者の権利擁護の観点から倫理的判断を含む高度な看護実践が求められる例を取り上げて検討する。加えて自然災害時の高齢者看護について検討する。	
	老年高度看護援助論 II	高齢者の保健・医療・福祉制度・政策の変遷と動向について、海外(欧米・アジア圏)について学修し、世界に類を見ない速さで少子高齢化、多死社会を迎える我が国の高齢者保健・医療・福祉のあり方を追究する。とりわけ我が国で推進している地域包括システムの現状から課題を見出し、高度看護実践者としての役割を探求する。	
	老年看護学特別演習 I	老年看護CNSの実習への円滑化を図るための演習であり、CNSに求められる6つの役割機能について、実際に慢性期にある高齢者とその家族を対象に包括的アセスメント、看護の必要性の診断プロセス、診断リストの作成および看護計画立案までの過程を展開する。6つの専門看護師の役割のレポート作成に際しては、CNS受験時の申請書類の一部として提示されている実績報告書の様式に基づいて記述を試みる。	
	老年看護学特別演習 II	各単元の学習課題に基づいて看護実践に関する文献購読、認知症のアセスメントや評価法の演習、認知症ケアが行われている臨床の場の見学や地域活動への参加、認知症の診断治療およびケアの専門家との討議を中心にすすめる。	
老年看護学特別演習 III	老年看護CNSコースの課題研究の導入であり、ゼミ形式で行うため、受講生は学習課題、学修内容に基づいて調べて発表資料を作成し、報告・討議する。		

授業科目名		授業概要
老年看護学	老年高度実践看護学実習Ⅰ	<p>高齢者の入院患者が多く占める医療施設でCNSに求められる高度看護実践、スタッフ教育、相談、調整、倫理的調整、教育、研究に関する事項を実習する。指導教員並びに高齢者看護に経験豊富な老人看護CNS、看護師長及び施設の看護管理者の指導のもとに実習を行う。</p> <p>なお、高度看護実践のケースレポート(看護過程1例と退院計画1例)また、倫理、調整、相談、スタッフ教育の実践活動レポートをCNS受験時の申請書の一部である実績報告書の様式に準じて各1部作成する。</p>
	老年高度実践看護学実習Ⅱ	<p>認知症高齢者が医療施設(外来)に受診に到った経緯、外来における診断検査・治療および医療施設や介護老人保健施設、認知症高齢者対応共同生活介護(グループホーム)に入院・入所して治療・ケアを受ける認知症高齢者の背景を理解し、老人看護CNSに求められる役割を修得できるよう実習する。指導教員ならびに老人看護CNSもしくは認知症認定看護師もしくは認知症高齢者看護に経験豊富な看護師長及び施設管理者の指導のもとに実習を行う。</p> <p>なお、高度看護実践のケースレポート(看護過程1例と退院計画1例)また、倫理、調整、相談、スタッフ教育の実践活動レポート各1部を作成する。</p>
	老年高度実践看護学実習Ⅲ	<p>慢性の疾患・障害や認知症により入院治療を経た高齢利用者が多く占める訪問看護ステーションにおける訪問看護を実習する。また、在宅高齢者看護に関連する課題を持って実習に臨み、看護体験を踏まえた上で課題レポートを作成する。指導教員並びに在宅高齢者看護に経験豊富な看護管理者、臨床指導者のもとに実習を行う。</p> <p>なお、高度看護実践のケースレポート(看護過程1例)と課題レポートを各1部作成する。</p>
精神看護学	精神看護学特論	看護理論や援助方法論を、精神看護の実践の場で適用する能力を高める。
	精神看護学援助論Ⅰ	精神看護学に関連する諸理論を学習し、精神看護の探究に必要な基盤を作る。
	精神看護学援助論Ⅱ	メンタルヘルスの問題を抱える人への援助方法について、精神看護の援助方法に関する諸理論を通して学習し、自己の看護実践能力を評価し、課題を明確化する。
	精神看護学特別演習	精神看護の知識・技術・倫理を踏まえ、問題となる課題、関心のある看護テーマに焦点を当て、研究プロセスに沿って論文を作成する。
地域看護学	地域看護学特論	地域看護のコアとなる実践技術を、概念の明確化からアセスメント・施策化の一連のプロセスにおいて学習し、アドバンスド・レベルの能力を考察する。
	地域看護学援助論Ⅰ	ヘルスケアシステムの成り立ちと現状を整理し、看護サービスの展開方法と技術開発を理解する。地域看護における倫理的課題への対応の方法を理解する。
	地域看護学援助論Ⅱ	ヘルスプロモーションやコミュニティ・デベロップメントにおける看護の役割を理解する。コミュニティを単位とした看護過程の方法と看護の役割を理解し、地域看護学研究の基盤とする。
	地域看護学特別演習	地域看護に関する自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。

授業科目名		授業概要
専門分野	看護学領域別特別研究	<p>本科目は、基礎看護学、看護管理学、成人看護学、がん看護学、小児看護学、母性看護学・助産学、老年看護学、精神看護学、地域看護学の9領域から構成する。CNSコースではなく、研究コースに該当する。</p> <p>1年次および2年次の講義・演習の成果を前提にして研究指導教員が担当して開講する。この場合、学生が探究するテーマによっては、学生個々の指導体制に応じ、サポートする教員となる副指導教員、研究指導補助教員の支援も受けることがある。</p> <p>大学院生による文献検討や研究素材、研究の経過、成果報告をめぐって、教員、学生による討論などを含め修士論文作成に至る一連のプロセスに関して指導する。</p>
	専門分野別課題研究Ⅰ (助産師コース)	助産ケアに関連するガイドラインや看護理論、国内外の文献のクリティックを通してエビデンスとして活用できる研究成果を見出し、助産ケアに寄与する課題研究のテーマを設定する。
	専門分野別課題研究Ⅱ (助産師コース)	助産ケアのエビデンスを「活用する・活用してもらう」「つくる」ことをめざして、研究課題に関する文献検討を行い、課題研究の問題の所在、研究の枠組み、研究方法を設定し、研究計画の妥当性を検討する。
	専門分野別課題研究Ⅲ (助産師コース)	研究計画書を作成し、倫理審査を受け、研究を実施し、課題研究論文を作成する。
	専門分野別課題研究 (がんCNS)	がん性疼痛の緩和をはじめ、がんによって起こるあらゆる苦痛を全体的に捉え、緩和するための、薬物がん患者のQOLの向上に資するために、方法論と援助展開論、特別演習Ⅰ、Ⅱで修得した理論を基盤にして、がん看護・緩和ケアにおける専門的な知識や技術を深めるための研究課題を、研究的アプローチに基づいて、論文あるいは成果物として作成する。
	専門分野別課題研究 (老年CNS)	老年看護CNSコースの課題研究に取り組み、論文を作成する。

7 研究指導分野 (令和9年4月1日予定)

分野領域等	研究指導教員	研究指導内容
看護管理学	恩幣 宏美 honbe@niigata-cn.ac.jp	・看護専門職の人材育成に関する研究 ・看護専門職の健康管理に関する研究 ・医療・患者安全に関する研究
基礎看護学	岡村 典子 norio@niigata-cn.ac.jp	・看護におけるコミュニケーション(感情活用)、人間関係に関する研究 ・基礎看護学、看護技術学に関する研究
	堀江 正男 mhorie@niigata-cn.ac.jp	・インターネット・ゲームの効果的な使用方法に関する生理学的研究 ・依存症に関する研究
母性看護学・助産学	増澤 祐子 masuzawa@niigata-cn.ac.jp	・妊産婦のPreference(希望・意向)に関する研究 ・助産ケアのエビデンスの確立に関する研究 ・エビデンスに基づく助産ケアの普及と実装に関する研究
小児看護学	大久保 明子 ohkubo@niigata-cn.ac.jp	・疾病や障害をもつ子どもと家族のケアに関する研究 ・子どもを亡くした遺族のケアに関する研究 ・いのち教育に関する研究 ・小児看護学教育に関する研究
成人看護学	高柳 智子 takatomo@niigata-cn.ac.jp	・急性期看護に関する研究 ・リハビリテーション看護に関する研究 ・脳卒中患者への看護ケアに関する研究
	小林 綾子 * otsuka@niigata-cn.ac.jp	・慢性疾患を持つ人や家族への看護に関する研究 ・慢性疾患の一次予防に関する研究
がん看護学	石田 和子 ** kazukoi@niigata-cn.ac.jp	・がん化学療法患者の有害事象に伴う症状マネジメントの研究 ・がん患者・家族の心理的支援に関する研究 ・がん患者・家族への教育支援に関する研究
	樺澤 三奈子 minako-k@niigata-cn.ac.jp	・がん患者のセルフマネジメントを支援するための看護介入に関する研究 ・がん看護に携わる臨床看護師を支援するための教育に関する研究
老年看護学	小長谷 百絵 ** konagaya@niigata-cn.ac.jp	・高齢者の尊厳を守る看護支援に関する研究 ・家族の介護に関する研究
	原 等子 naohara@niigata-cn.ac.jp	・高齢者ケアの質向上に関する研究 ・高齢者の日常生活・疾病障害特性にかかわる援助、多職種連携・調整に関する研究 ・認知症ケア(認知症本人支援・家族支援・地域づくり、ケア技術)に関する研究
精神看護学	谷本 千恵 tanimoto@niigata-cn.ac.jp	・精神障害当事者や家族のピアサポートに関する研究 ・コミュニティメンタルヘルスに関する研究 ・院内での患者自殺事故後のスタッフケア(ポストベンション)に関する研究
	徐 淑子 suhs@niigata-cn.ac.jp	・健康現象および医療の社会・文化的背景に関連する研究 ・保健行動(予防的保健行動、病気対処行動、受療行動、求助行動等)についての研究 ・アルコール・薬物依存症、HIV/AIDSのケア・サポートに関連する研究 ・ジェンダー、セクシュアリティに関連する研究
地域看護学	高林 知佳子 takabaya@niigata-cn.ac.jp	・住民、療養者、家族等のQOL向上に向けた支援に関する研究 ・地域で働く看護職が抱える問題に関する研究 ・地域看護の実践活動に関する研究
	関 睦美 * museki@niigata-cn.ac.jp	・退院支援の実践活動に関する研究 ・訪問看護の実践活動や多職種連携に関する研究
	永吉 雅人 nagayosi@niigata-cn.ac.jp	・香害に関する研究 ・環境過敏症(化学物質過敏症、電磁過敏症等)に関する研究

*は研究指導補助教員

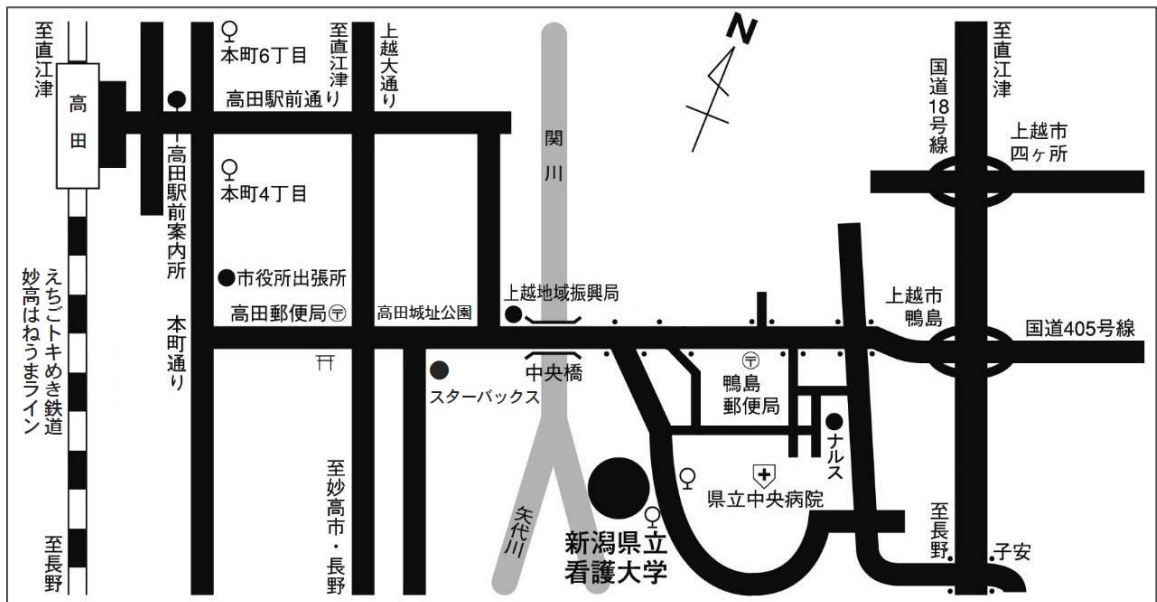
**は標準修業年限内に退職予定

IV その他

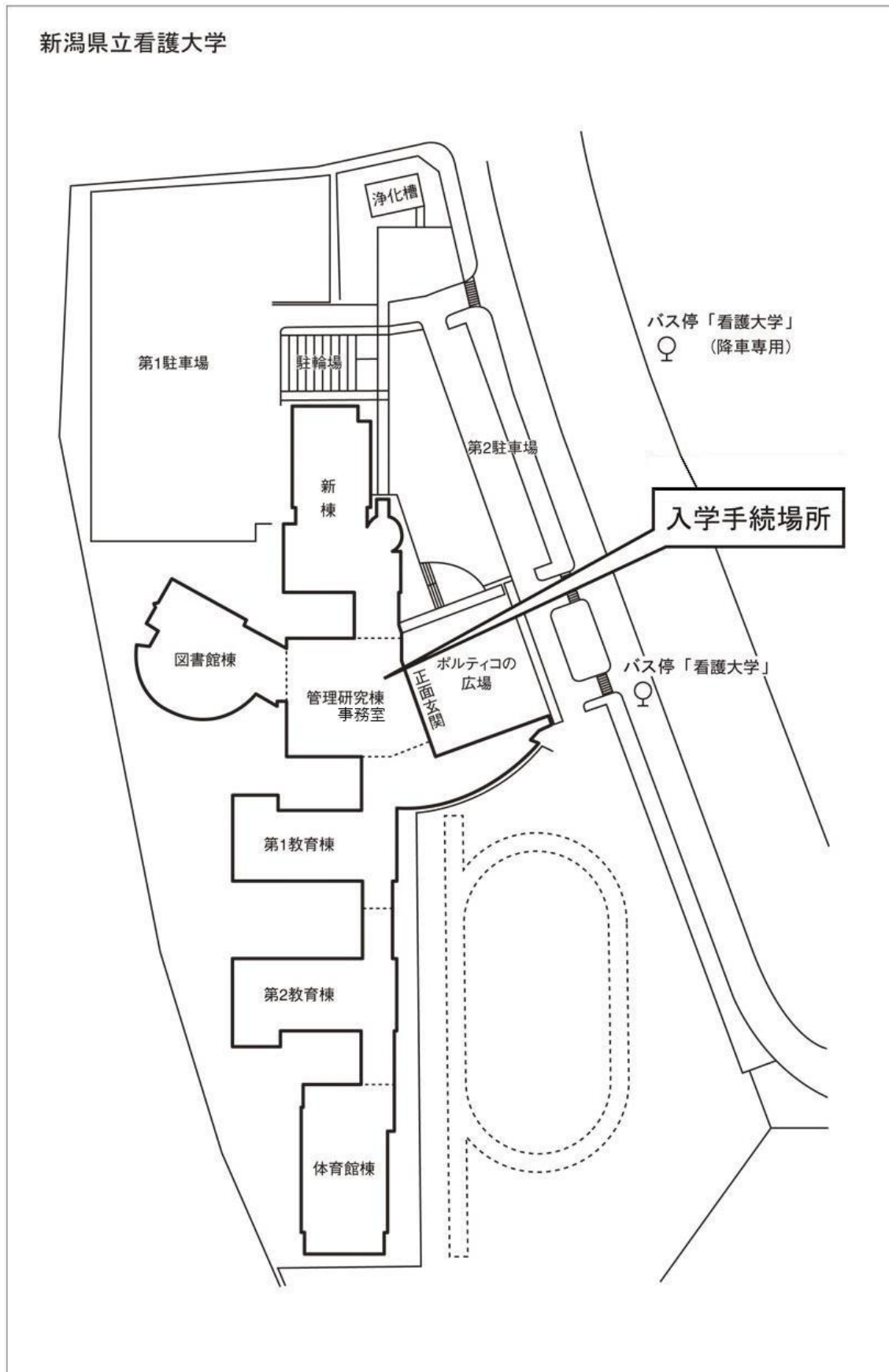
1 試験会場略図

新潟県立看護大学

- ① 所在地：新潟県上越市新南町 240 番地
- ② 交通案内：えちごトキめき鉄道妙高はねうまライン「高田駅」下車、「高田駅前案内所」又は「本町4丁目」から「中央病院行き」バスに乗車、「看護大学」下車、所要時間約13分



2 入学手続場所案内図



3 障害等を有する入学志願者の事前相談について

本学大学院に入学を志願する者で、障害を有する等、受験上又は修学上特別な配慮を必要とする方は、以下により、関係書類を提出してください。

なお、必要な場合は、本学において志願者及び関係者等と面談を行うことがあります。

1 提出期間

【8月入試】令和8年7月9日(木)から7月16日(木)まで

【1月入試】令和8年11月20日(金)から11月27日(金)まで

2 提出書類

(1) 相談申請書（様式は任意とし、次の事項を記載してください）

ア 入学志願者の氏名、住所及び電話番号

イ 障害等の種類、程度

ウ 受験上又は修学上で特別な配慮を希望する事項

エ 出身学校・勤務先等でとられていた特別な配慮や措置

(2) 医師の診断書又は障害者手帳の写し等

3 提出・照会先

〒943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地

新潟県立看護大学 教務学生課教務係

電話 025-526-2811

新潟県立看護大学

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地

電話 025-526-2811 (代)

FAX 025-526-2815

E-mail kyoumu@niigata-cn.ac.jp

ホームページ URL <https://www.niigata-cn.ac.jp/>